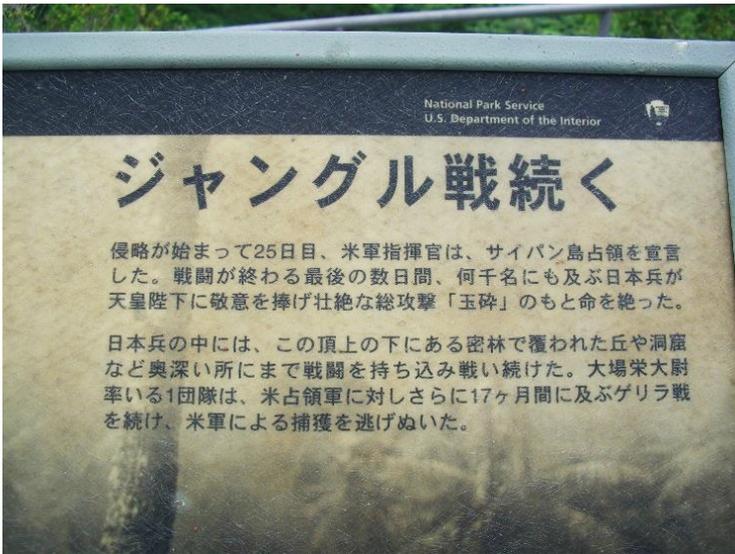


サイパン・テニアン



タポーチョ山頂よりの展望





ジャングル戦続く

侵略が始まって25日目、米軍指揮官は、サイパン島占領を宣言した。戦闘が終わる最後の数日間、何千名にも及ぶ日本兵が天皇陛下に敬意を捧げ壮絶な総攻撃「玉碎」のもと命を絶った。

日本兵の中には、この頂上の下にある密林で覆われた丘や洞窟など奥深い所にまで戦闘を持ち込み戦い続けた。大場栄大尉率いる1団隊は、米占領軍に対しさらに17ヶ月間に及ぶゲリラ戦を続け、米軍による捕獲を逃げぬいた。



ドンニイ野戦病院入り口



タバコ地獄谷入り口



陸海軍合同司令部跡



ドンニイ野戦病院跡



スーサイド・クリフ



ハンザイ・クリフ



中部太平洋戦没者の碑





マニヤガハ島 (軍艦島)





ノースフィールド



原爆搭載ピット



日本軍海軍司令部跡




5. 日本軍の航空作戦ビル

この建物はテニアンにおける日本海軍第一師団航空修繕作戦の管制センターで、南方に向う滑走路の交通指示を行っていた所です。これは第2次大戦中の航空作戦用建築物の標準設計に沿って建てられたもので、中には事務所、作戦室、発着室があり、同様の例はサイパンやチョウクでも見られます。

ウシ飛行場は米軍の侵入の翌日にあたる1944年7月25日に占領され、2日後には米軍が再開し、引き続きテニアンの南端に向って攻め込んだ戦いで活躍しました。建物は破壊され、ノース・フィールドにB-29用滑走路が建設されてからは第20空軍部隊の管制塔として使用されるようになりました。

ノース・フィールドの建設

テニアンとサイパンの攻略は太平洋戦争「終結の始まり」となったものです。超空の要塞B-29長距離爆撃機が生産工程から離れ、これを受け入れるためにテニアンとサイパンに約2.6キロメートルの滑走路が建設されました。第2次大戦中の大規模な建設プロジェクトの一つがテニアンにおけるB-29用の巨大な滑走路6本でした。その内4本はノース・フィールドに、そして2本はウエスト・フィールド（現在のテニアン空港）に建設されました。この優れた設計は後に米海軍設備部隊や海兵隊建設部隊により完成されました。

地上の基地を離れたB-29が日本の上空に達することを可能にしたのが近距離にあるマリアナ群島でした。テニアンからのB-29の離陸は1945年2月に始まり、抱え間ない空中城を展開し、この島の飛行場は世界で最も活気のあるエアフィールドとして名を馳せました。

建設後半世紀以上が過ぎた今でも滑走路は優れたコンディションを維持しており、彼等の建設技術がいかに豊れていたかを証明しています。



サンホセ遺跡



テニアン島最南端 スーサイド・クリフ

